

令和元年度摂津市立味舌小学校第6回学校協議会 要点録

令和2年1月21日(火)19:00~20:35

於：味舌小学校校南棟1階学習室

記録：平野 憲昭(事務局：本校教頭)

出席委員：榎谷佳純、以登田毅、門野さとみ、前田文雄、河合隆之、角田幸代

欠席委員：中居正一、小澤香織、吉田栄子、高森佳代子 (敬称略)

学校出席者：校長 前馬晋策、教頭 平野憲昭

1. 校長より挨拶

お忙しい中、お越しいただきありがとうございます。

本日は、今年度の学校評価について、学校協議会で関係者評価をいただきたく存じます。また、次回を2月10日に開催したいと考えております。

2. 報告・協議事項

(1) 学校の近況について(前回以降)

12月14日	摂津市読書感想文コンクール表彰式
12月16日	パセリ収穫(2年)
12月17日	洗濯実習(3年)
11月18日	トイレ掃除で奮闘(6年)
12月19日	給食Xmasメニュー
12月23日	大掃除
12月24日	終業式、メンター研修
1月1日	初日の出
1月8日	始業式
1月14日	市P座談会
1月15日	セーフティパトロール
1月17日	地震想定避難訓練
1月20日	一中公開授業研
1月21日	English day

(校長) 2年生児童がパセリの収穫を行った。パセリを育てている農協のコンテナには「未来の農業」をテーマに描いた絵画が掲示されている。コンテナ内は温度や水の調整が行われ、無菌状態で育てられている。収穫したパセリはスパゲティやハンバーグのソースなど、給食に利用された。また、2年生は3株ほど家に持って帰らせていただいた。

洗濯実習を3年生が行い、楽しんで取り組んでいた。

トイレ掃除の際、詰まった便器を6年生の掃除当番が奮闘して、流れるようにしてくれた。1年生が困っているのでは何かしたいと思ったそう。その気持ちがうれしい。これをきっかけにトイレ掃除に力を入れたいと思っている。PTA 運営委員会でもそのことを伝えた。また、校内の清掃活動に児童は一生懸命取り組み、二学期末の大掃除では隅々まできれいにする姿が見られた。

本校では人材育成のため、メンター研修を行っており、学校経営サポーターを中心に経験の浅い教員の育成に力を注いでおり、その内容については府教委からも注目されている。

年明け初めの登校日は、担任が黒板に児童へメッセージを書くなどして、児童を迎えた。絵を添えるなどして児童が楽しめる環境を作ろうと工夫している。始業式では、児童は整然と話を聞いていた。

学校教職員と保護者の距離を縮め、コミュニケーションを取ることを目的とした市 PTA 座談会があった。私が話題提供としてプレゼンテーションを行い、その後、活発な意見交流が行われた。

地震想定避難訓練を、リアリティを追求するため、休み時間に実施した。運動場で遊んでいた児童の一部が緊迫感に欠けていたことは残念。いつ地震が起こるかわからないので、様々な状況を想定した避難訓練が必要であり、さらに工夫を重ねたい。また、教職員の危機意識の向上も図っていく。

一中公開授業研究会では、中学 1 年生の授業を参観した。小中の授業での共通点・相違点など、授業後の研究協議で活発に話をした。このような交流の機会がもっと必要であると感じた。

English day では、市内各中学校区に派遣されている ALT 全員が小学校に集まり、様々なアクティビティを通して、児童は英語に親しんだ。早くも来年を楽しみにしている児童もいる。

(2) 学校評価アンケート結果分析による意見交流

(校長) 令和元年 11 月 18 日 (月) から 29 日 (金) に実施した学校評価アンケートの結果分析についてお伝えする。対象は、保護者、児童 (5, 6 年生)、府費負担教職員である。それぞれの回収率は、保護者が 86.4%、児童が 94.7%、教職員が 83.3%であった。

保護者からの回収率は高く、学校に対する関心が高まっているととらえている。

肯定的な回答が多かった項目を学校の強みと考える。校長のリーダーシップ、安全教育、保護者相談、食育、学校行事などの肯定率が高かった。

児童からの回答では、林間学校や修学旅行などの宿泊を伴う学校行事についての項目で肯定的な回答が多かった。しかし、運動会については決して高くないのは課題である。他には、防犯教育、命の大切さ、ルールの徹底などの肯定的回答数が多かった。

教職員からの回答では、学習指導に力を入れていると感じていることが伺える。他には、問題行動への組織的な対応、児童の学校生活への工夫・改善、学校行事などの肯定率が高かった。

一方、否定的な回答の率が高かった項目を学校の弱みとして見ていくと、保護者においては、ICT 教育、キャリア教育、児童会活動、現代的課題に係る教育などが挙げられる。キャリア教育や児童会活動などにおいて、取組みを進めていることが、保護者に伝わっていないと思われる。

児童においては、先生等への相談のしやすさ、校長の話の分かりやすさなどが挙げられる。集会では、全校児童は校長の話を整然と聞いており、反応もいいのだが…。

教職員においては、人権教育、情報教育、児童会活動、現代的課題に係る教育などが挙げられる。校内では、いじめ事案も生起しており、人権教育の充実喫緊の課題である。

昨年度からアンケートの内容を改訂し、経年比較をした。保護者で肯定的な回答率が下がった項目は、全 30 項目中 28 項目。数字だけを見ればほとんどの項目で肯定率が下がっているが、アンケートに対して関心を持ち、各項目についてしっかり考えた上で回答していただけた結果ととらえている。

清掃活動についての肯定率が下がっている。これまで学校がきれいであると評価していただいていたが、今後、清掃の仕方や時間の確保など、検討していく必要を感じている。その他、学校

から出す文書や情報が分かりにくく、また、もう少し早く知らせて欲しいなどの声をいただいている。

児童では、食育、先生の話・注意への納得、児童会活動、運動会についての項目で肯定率が昨年度より下がった。食育については、栄養教諭の異動により取組みが弱くなっていることを反省する必要がある。各教職員の当事者意識が求められる。運動会は、本来楽しいものであるはずだが、児童が主体的に取り組めるものにする必要がある。

一方、肯定的な回答率が上がった項目は、保護者においては、校長のリーダーシップの項目であった。児童においては、キャリア教育、教職員においては、人材育成の体制、学校の特色、情報リテラシーを高める教育、読書指導、生徒指導、職場の人間関係などで肯定率が上がっていた。

自由記述ではたくさんのご意見をいただいた。保護者からの意見では、学級編制において、4年生の1クラス当たりの児童数が多いとの声があったが、いわゆる義務標準法に則って学級編制を行っており、学級定数を下げることは困難である。また、教職員と児童の信頼関係をさらに築いていく必要があるが、指導の際に教員の思いが十分に児童に伝わっていないということがあり、改善が必要である。その他、休み時間が短く水分補給ができず、トイレに行けなかったりする、給食のメニューに汁物が多いなどの声もいただいた。自由記述の中で、教育委員会などに伝えるべきものは今後伝える。

児童からは、お互いが仲良くなるための方策など、具体的な意見があり、教員との信頼関係を望む声もあった。

それぞれ対応できることは、すぐにでも対応していきたいと考えている。

以上の結果をもとに、皆様からご意見をいただきたい。

(委員) 自由記述を読むと、保護者がもっと勉強すべきこともあるのではと感じることもある。ICTという言葉がわからないという声もあったが、自分でも言葉を調べることができるはずである。また、宿題については様々な意見があるが、量は決して多くないと思う。今出されている宿題の量は十分な量なのか。

(校長) 十分な量かと言えばそうでないかもしれない。あくまで最低限の量であり、自主的に学習する習慣を身に付けさせたい。保護者が学校のことをよく知らないということは、学校からの発信が弱い結果とも言えるのとらえている。

(委員) 学校は積極的に情報を発信しているが、保護者がそれを受け取れていないということもあるのではないか。発信の内容、方法に課題があるのかもしれない。

校長のリーダーシップが発揮されていると保護者が評価しているということは、子どもが普段の学校の様子を保護者に伝えていることが伺える。児童は校長の話を知りたいと思っているが、話す情報がたくさんあるので、わからなくなっているのかもしれない。

保護者が勉強すべきことももちろんあるだろうが、学校がより発信に力を入れていくとよいのではないか。人権教育について取り組んでいるが、それが保護者には十分に伝わっていない。児童会活動についても児童自身に取り組んでいるという意識を持っていない。取り組んでいることを価値付ければ、児童は目的をもって取り組めるようになるだろう。また、学校だより、参観・懇談などを利用して、取組みを保護者に知ってもらうことも必要である。

地域に対しても同じで、学校が何をしているのかわからない部分がある。学校で行っていることをもっと細やかに発信すると様子が伝わってくる。交流教育についても、どのようなことをしているのかは保護者も地域も知らない。

(校長) 学校の情報は届きにくいと感じられるか。

- (委員) 自分の子どもが卒業した後は、学校がどのようなことをしているのかと考える機会が少なくなるので、学校からの情報が届きにくいとは思わない。
- 保護者の回答率は、86.4%でかなり高く、協力していただいていると思う。児童の回収率が94.7%であるのも、欠席者がいたことを考えればいい方である。一方、教職員の回答率が83.3%と低いのはどうしてなのか。無記名での回収なので、難しい面もあるが、組織体制として課題があると感じる。
- (委員) 無記名だとしても、特定しやすい条件になると回答しにくいことはあるのではないか。
- (校長) 誰が出していないのかを把握できないことはある。教職員の評価・育成システムにおける「校長・准校長の学校運営に関するシート」は、学校評価アンケートに比べるとさらに提出率は下がる。提出しなければいけないという意識は高くない。
- (委員) 提出しない教職員は、組織の運営に対して、否定的な意見を持っている傾向があるのではないか。アンケート自体に意味を感じていないのか。
- (校長) 忘れていたという教職員もいるので、必ずしも提出していない教職員が学校運営に対して否定的であるということはないと考える。ただし、様々なことに関心を持ち、もっと真剣に学校をよくしようという姿勢は必要である。
- (委員) 通知表が分かりにくいという意見があるが、どのように分かりにくいのか。
- (委員) 判断基準が分かりにくいのではないか。普段のテストで点数が高くても、通知票での評価は高くないということはある。
- (校長) 点数のみで評価をつけると分かりやすいかもしれないが、学力というのは点数だけではなく、さまざまな観点から評価する必要がある。小学校では成績が良かったが、中学校に進学すると振るわず、小学校の時のギャップに戸惑う保護者もいる。数値化できない評価というのは、伝わりにくく、主観的になってしまうこともあるかもしれない。評価は重いものだととらえ、私は、本校児童のすべての評価をチェックしている。
- (委員) 市内全ての校長がチェックしているわけではないのでは…。そこまでのする必要があるのか。
- (校長) 必要なチェックは、どの校長もしている。
- (委員) 親が何を知りたいと思っているのだろうか。学習内容は理解できているかということはもちろんだろうが、クラスの中で何番目の成績なのだろうかということも知りたいのではないだろうか。
- (委員) 絶対評価であることは理解しているが、本音は相対評価を知りたい。理屈では学習内容を全て履修したらそれでいいと思っているが、他の子どもと比べて我が子はどうだろうかということが気になる。
- (委員) 全国学力・学習状況調査での結果を、学年の中で何番目であることを保護者へ伝えることは問題なのか。
- (校長) 問題はある。市内の学校の序列や個人の序列が知りたいという声を聞くことはある。しかし、他の人と比べるのではなく、自分自身について、どこまで学習が定着しているのかを把握するためのものであり、しっかり課題を把握して、改善へ向けて取り組むためのものである。
- (委員) 私は、テストの点数や成績表の評価などはあまり気にしていないが、学習に向かう態度についてはこだわりたいと思っている。
- (校長) 通知表については、現在もほぼ全ての教科の評価項目で観点別に評価をしているが、今後市内の小学校全てでさらに観点別評価を進めていく。詳細が分かりにくいかもしれない。以前だと、「三角形の角度についてわかる」などの具体的項目について成績をつけていたので、何ができて、何ができていないのが分かりやすかった。したがって、今後は評価要素についての説明

は必要であると考えている。

(委員) 私の母親は店をやっている、学校の先生がよく来ていた。ある時、先生から「お宅の息子さんは落ち着きがない」などと言われたことがあった。その時、母は「残念な先生やなあ。あんたの良さを分かってくれてへんなあ。」と言っていた。人の見方によって評価は違ってくることもある。

(委員) 成績表が全てではなく、普段から保護者とコミュニケーションをとって、子どものことについて、伝えることが必要になってくる。

(委員) 教員はいろいろなことを求められるので、非常に厳しい職場環境である。

(委員) PTA 役員をしているときに、学校行事がいつあるのかがわかると、見通しを持てるので、早く予定を知らせていただくと助かる。

最近では保護者が忙しくなっていることもあるが、保護者がもっと学校に関心を持つべき部分はある。

(委員) 「今日朝会あるで」と朝に子どもに確認するような保護者はきちんと、学校だよりをよく読んで把握していると思う。

民生児童委員として登校の見守りをしているが、ある子どもがいつも通っている時間になっても通らないので、気になっていたが、実は車で学校へ送ってもらっていた。行事の関係で急いでいたのだろう。朝、親とコミュニケーションを取れている家庭は、子どものことがよく分かっている。

(校長) 行事は早く知らせるべきだと思っている。学校とは異なり、仕事のシフトが早くから決まっておき、3 か月前には知らせたいという声もある。そこで、来年度の運動会の時期の変更も早くお知らせしようと思い、PTA 運営委員会で報告した。

(委員) 本来は子どもの行事を優先するような職場に変えていくべき。社会的な問題ではあるが、子どものための休暇を取れるような職場にするべき。

(委員) 学校からのお便りは、文字数が多いので関心が低い人にとっては、読みにくい。読んで欲しいものは文字の大きさを変えるなど、工夫すると思う。

「学校へ行くのは楽しい」というのはどうしても低くなってしまいう傾向がある。学級の中では楽しいと感じている児童が多いが、もっと学校が楽しいと感じる児童を増やしたい。これは、「授業がよくわかる」ともつながることで、やはり学習することが楽しいと感じる児童を育てていきたい。

(校長) 「学校」という場所は、厳しいというイメージを持っている児童は多い。先生、年上の児童が怖いと思っている児童もいるようである。

(委員) アンケート結果を見れば、学校を否定的に捉えている児童は3割程度。保護者は、2割程度。問題はこの1割の差である。1割の子どもが、親は認識していないが、実は楽しくないと感じているということ。この差を埋めないといけない。

児童は先生に相談しにくいと思っているが、教職員は児童の意見を聞いていると思っている。行きたくないと思っている児童が多い中で、行きたくなるような学校にしていけないといけない。大人の感覚で判断するのではなく、主役である児童がどう思っているかを理解しておかなければならない。

「相談」についての項目がたくさんあるが、相談できていない児童は誰に相談しているのだろうか。ユニバーサルデザイン(UD)という考え方は、教育において必要なことではあるが、捉え方しただけでは、間違いを起ししやすい。誰でも使いやすい道具はなくて、一人ひとり違う。学校の

先生が、標準化して、これさえやれば理解できるというスタンダードをつくっていることになりかねない。一人ひとり違うことに対応できる学校をめざすべきではないだろうか。UDを取り入れれば魔法のようにいいことをしているという錯覚に陥ってしまうことがある。

(校長) 教育環境としてのユニバーサルデザインは必要。しかし、個別の教育支援を求める児童のことを忘れてはいけないと考える。それが安心感や行きたい学校につながる。

(委員) 参観などを利用して授業を実際に見てもらうことがもっと必要なのではないか。例えば、保護者が ICT 機器などを活用している授業を見たり、人権教育の取組みを見たりすることで、分かってもらえると思う。わが子が児童会委員をしていて、話を聞いていたので内容を知っているが、そうでなければ児童会活動のことも分からない。

(委員) 発信が充実してくると、内容も良くなっていくということもあるが、あくまでも内容を充実させることが大切である。学級が楽しいと感じていれば、子どもの居場所があるわけで、それでいいのではないかと思うこともある。先生に相談できると思っている子どもが 5 割ぐらいであるのも、相談する相手は先生ではなくても、他に相談できればそれでいいのではないかとも思う。

核家族で過ごす現代において、先生や地域との関わりを持つことで、様々な価値観に触れることが大切である。

(委員) 学校が楽しいという回答で、保護者と児童でこんなに差があることは不思議に思う。

全般に肯定的な回答が 80%以上で、昨年度とそれほど差がないのであれば、良好な結果ではないだろうか。児童、教職員の回答で情報機器の使用や情報リテラシーについての項目の肯定的回答率が上がっているが、その理由はどこにあるのか。

(校長) 肯定的回答率が上がったとはいえ、教職員の場合 50%と高くはないのだが、昨年度は学校に導入していただいた ICT 機器を教職員が十分に使いこなせていないことがあった。来年度からの新学習指導要領の完全実施に向けて、教職員の意識が高まり、今年度は教職員のタブレットの使用率が上がったことが、児童にも影響したのだろう。

(委員) 親はまずは子どもが学校に行ってくれることで安心するもので、保護者と子どもの回答率に差が出るのは納得できる。

明日学校が休みになったと聞くと、ほとんどの子どもたちは「やったー！」と喜ぶ。「学校」というのは昔からそういうイメージがあるので、「学校が楽しい」と回答していない児童でも、毎日登校しているのであれば、問題ないと思う。

いじめに対しては世の中の関心が高まる中で、昨年度より取組みに対する児童の肯定率が下がっているというのは問題である。なぜこのような結果になったのか分析が必要である。

また、学校行事は一生の思い出となるので、引き続き取り組んでもらいたい。

教職員においては、校長がリーダーシップを発揮し、教職員間の人間関係がよくなっていることは非常に喜ばしいことである。今後も ONE TEAM で頑張ってもらいたい。あとは、教職員のアンケート回収率が上がるように取り組んで欲しい。

(校長) 人権教育の研究はこれからも重要である。また、誰でもわかる授業というのは存在しないかもしれない。しかし、それをめざすことは必要なことであり、児童一人ひとりに寄り添い、支援し続けることで大切だと考える。

清掃活動については、限界もあるができることから取り組みたい。

今後、学校評価アンケートの結果分析の概要版を保護者に配付し、HP では詳細について、詳しくお知らせする予定である。

さらに、本日いただいたご意見をもとに、次回までに学校運営への提言をまとめたい。

(3) 平和登校日アンケート結果

(校長) 回答いただいた方全て、児童の平和登校日への出席状況を把握しておられ安心した。

自由記述では多くの意見が寄せられ、反響が大きかった。全体的には、継続を望む声が多かった。しかし、内容を改善すべきだという声もいただいた。以前はもっと力を入れて取り組んでいたが、今はビデオを見るなどの取組みをしているがそれでよいのかという意見など。

一日だけの取組みで十分なのかという声はあるが、修学旅行の事前学習や報告会を含め、年間を通して平和教育は行っている。また、暑い時期にすることに疑問を感じる方もいるが、8月6日に実施することに意義があると考えている。もちろん暑さ対策は必要だと考えている。教職員の働き方改革の一環で止めたいのではと思われている方もいるが、より良い取組みにするためのアンケートである。来年度も内容を改善した上で、趣旨を丁寧に説明しながら取組みを継続したい。

(委員) 継続こそ力なり。これだけ反響があることが大切なことである。話題に挙げていくことで保護者や地域に伝わることにつながる。

(委員) 以前はこの学校で、12月8日にすいとんを作って、学校で食べていたことがあった。12月8日は太平洋戦争の開戦日で、平和を意識した取組みを続けて行っていた。それに協力させていただいていた。

(校長) 私もすいとんを作って児童に食べさせたことがあった。確かに、何をやろうかとみんなで考え、熱心に平和教育について取り組んでいた。

学校協議会で「アンケートを取ってみては？」とご意見をいただいたおかげで、保護者の声をたくさんいただくことができた。平和登校日を行っていない市もあると聞いている。「摂津市立の小学校及び中学校の管理運営に関する規則」により、学期及び長期休業日は定められていて、平和登校日は授業日としてカウントできない。また、家の都合で登校できないこともある。平和登校日の意義を大切にし、われわれも新たに学びながら、今後も取組みを継続していきたい。

(委員) 他市では、地域と一緒に取り組んでいるという事例もある。取組み方は様々であるが、平和教育を進めていくことを大切にしたい。

(4) その他

(校長) 本校の研究発表を2月6日(木)に実施する。本日話題に上がったユニバーサルデザイン(UD)の考えも取り入れた授業づくりを是非見ていただきたい。全員が参加する授業づくりをめざしているが、全員というのは個々を見た上での全員であるということをお忘れはいけない。

来年度から外国語の教科書が5,6年生対象に給与される。現在、すでに英語に苦手意識を持っている児童がいる現状の中で、英語嫌いを小学校から生み出さないような授業づくりをめざす。

(委員) 次年度の入学式いつ行われるのか。

(校長) 小学校は4月7日、中学校は4月8日に実施予定である。

(5) 次回の予定について

・主な報告・協議事項は次のとおり

- ① 学校運営への提言のまとめ
- ② 外国語の授業について
- ③ 年度末に当たって

・開催日時は、2月10日(月)19:00より。本校学習室にて。